

2025年12月22日

埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム
令和7年度第2回市町村分科会

大学と自治体の連携事例

—高安ゼミ（獨協大学）×草加市—

獨協大学経済学部経済学科

教授 高安健一

2025 ▶ 2030 ▶ 2050



SDGs未来都市

SOKA

構成

- I. 獨協大学のSDGs地域連携基盤整備
- II. 高安ゼミの地域連携活動
- III. 大学×地域でリブランディング
- IV. 大学と自治体の連携に向けて

I. 獨協大学のSDGs地域連携基盤整備 (2016年～2024年)

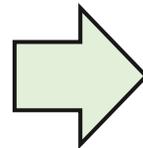
I -1. 高安ゼミのPBLの概要

【高安ゼミの学び】

▼プロジェクト型課題解決学習 (PBL)

→3年次に、10カ月間取り組む

1. チームを組成し
2. 学生が課題を掘り出し
3. 解決策を考え
4. 解決策を実践し
5. 学外に発信する



地域の企業・団体や行政
と相互補完/相乗効果/
連携

※物的資産を持たずとも、できることはたくさんある!

I-2. 東京オリンピック・パラリンピック競技大会が地域連携の原体験（2016年～2021年）

地域連携の基本形を把握

2017年2月時点の関係性

東京2020チーム活動終了時

高安ゼミ

×

草加市スポーツ振興課

プレゼンテーション+レポート提出
署名活動への貢献

都市ボランティア
募集活動

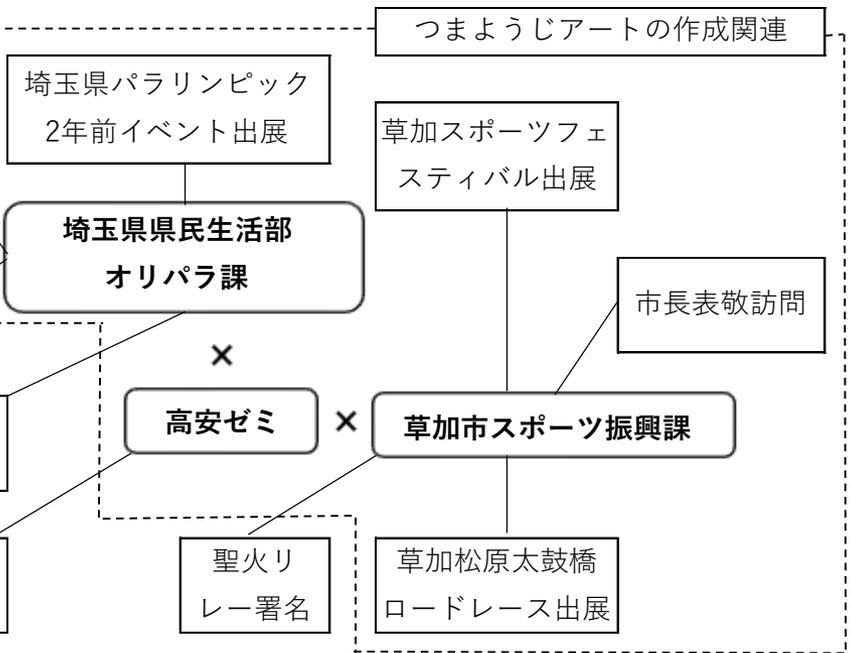
獨協大でのボラ
ンティア説明会

テレ玉・産経新聞、東
京新聞で活動紹介

獨協大学・近隣自治会
懇談会でのプレゼン

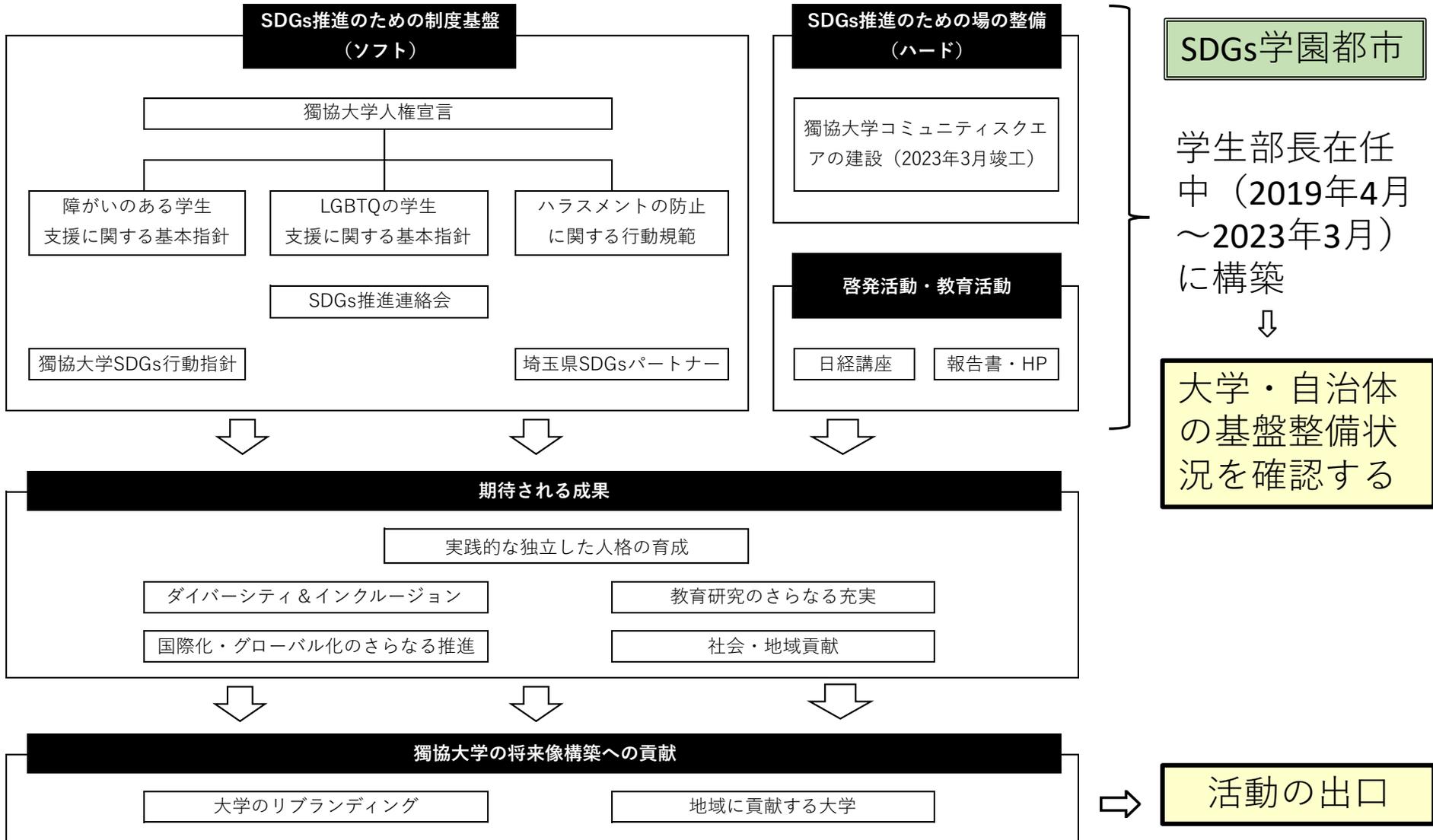
2019年3月時点の地域連携のカタチ

埼玉レガシー2020チーム活動終了時点



2020年2月からのコロナ禍をきっかけに草加市に注目

I-3. 獨協大学におけるSDGs推進のための基盤整備 (2023年3月に完了)



(出典) 高安健一 (2022) 「獨協大学におけるSDGs推進体制の構築 (2019年12月—2022年4月) と地域連携PBLの展開」『獨協経済』第113号p.60掲載の図表1に一部加筆。

I -4. 獨協大学SDGs行動指針 (2022年3月)

獨協大学は、学則第1条「社会の要求する学術の理論および応用を研究、教授することによって人間を形成し、あわせて獨協学園の伝統である外国語教育を重視して今後の複雑な国内および国際情勢に対処できる実践的な独立の人格を育成する」の理念の下、社会の発展に寄与するSDGsの達成を担う人材を育成します。

1. 本学構成員のSDGs達成に向けた意識の向上と認識の共有

獨協大学は、学内構成員ひとりひとりがSDGsに関する認識を共有し、持続可能な社会の発展について主体的に考える環境を提供してSDGs啓発活動に取り組みます。

2. 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現

獨協大学は、「獨協大学人権宣言」に基づき、「誰一人取り残さない」社会実現の一翼を担うべく、人権が擁護され、誰もが平等な教育研究の機会を与えられ、人として成長できる場を創造します。また、多様な人材が輝きをもって活躍できるよう「ダイバーシティ（多様性）& インクルージョン（包摂性）の推進」に取り組みます。

3. 地球規模の課題への取り組み

獨協大学は、温室効果ガス削減、貧困と飢餓の撲滅、質の高い教育、社会の平和と公正を含むSDGsの達成に、関係機関とパートナーシップを形成して取り組みます。

4. 地域の課題への取り組み

意中の大学に作成してもらう

獨協大学は、地域社会が抱える課題の解決に向けて、自治体、民間セクター、地域住民、NPO/NGO等と連携して取り組みます。

I -5. 獨協大学と草加市のSDGs制度化

自治体が意中の大学に登録を促しては？

2021年 3月：獨協大学「埼玉県SDGsパートナー」第180号登録

2023年11月：草加市と獨協大学「SDGs達成のための連携」項目を追記した「草加市・獨協大学基本協定 変更協定書」締結（「7. 記各号に関連するものを含むSDGs達成のための連携」を追加）

連携協定を
締結する

2024年 5月：草加市「SDGs未来都市」及び「SDGs自治体モデル事業」に選定

：獨協大学前〈草加松原〉駅西側エリアの活性化
5者協定締結（草加市、UR都市機構、東武鉄道、トヨタホーム、獨協大学）

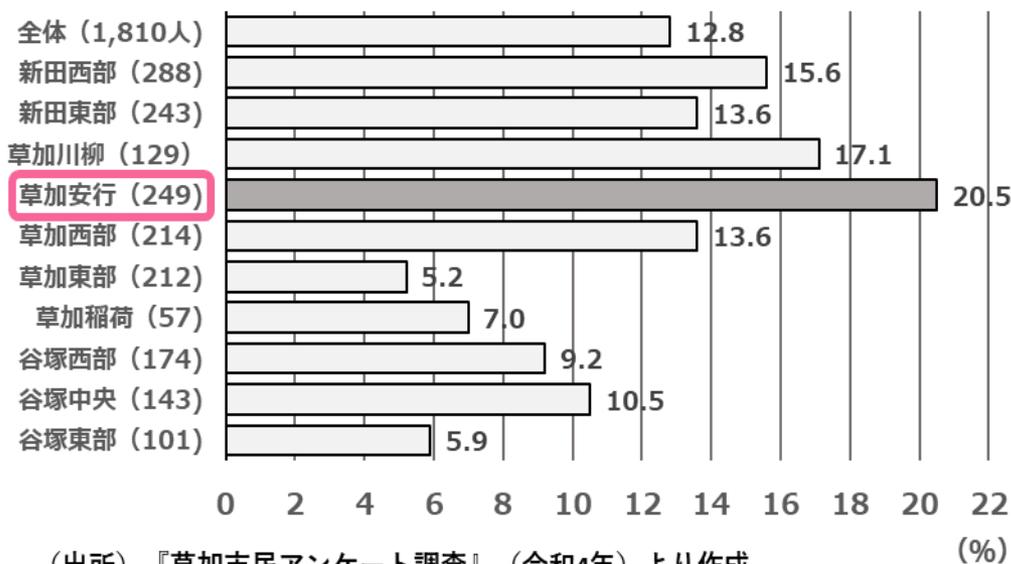
10月：獨協大学「そうかSDGsパートナー」第1号登録

12月：高安ゼミ「そうかSDGsパートナー」第72号登録

I-6. 市民の獨協大学好感度を確認

質問：あなたが、草加市の自然・歴史・文化・産業・生活環境等で自慢できるもの、誇れるものは何ですか。（○は3つまで）

「大学等高等教育機関があることが自慢できること、
誇れること」と回答した草加市民の割合



(出所) 『草加市民アンケート調査』 (令和4年) より作成。

【草加市10地域】



(出典) 草加市ウェブサイト掲載資料。

I-7. 駅の西側エリアに着目

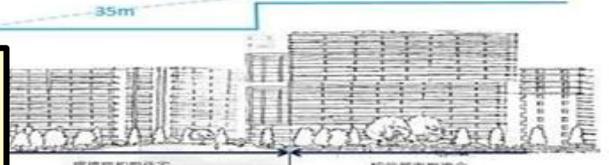
・事業名：【獨協大学前<草加松原>駅西側地域まちづくり推進事業】約54ha
 ・事業期間：平成15年度～
 ・UR都市機構及び民間開発により地区内で約6,000戸の住宅を建設する計画です。
 ・団地の建替事業に伴い、団地内に設置されている公共公益施設等(都市計画道路、都市公園、保育園、小・中学校、児童館等)の新設・再整備を行いました。

松原団地建替事業の整備の状況と今後の予定
 ※社会情勢等により今後変更になる事が予想されます

※松原団地駅は平成29年4月1日より獨協大学前<草加松原>駅に駅名変更



100年に1度のチャンス到来
 →地域活性化の社会実装

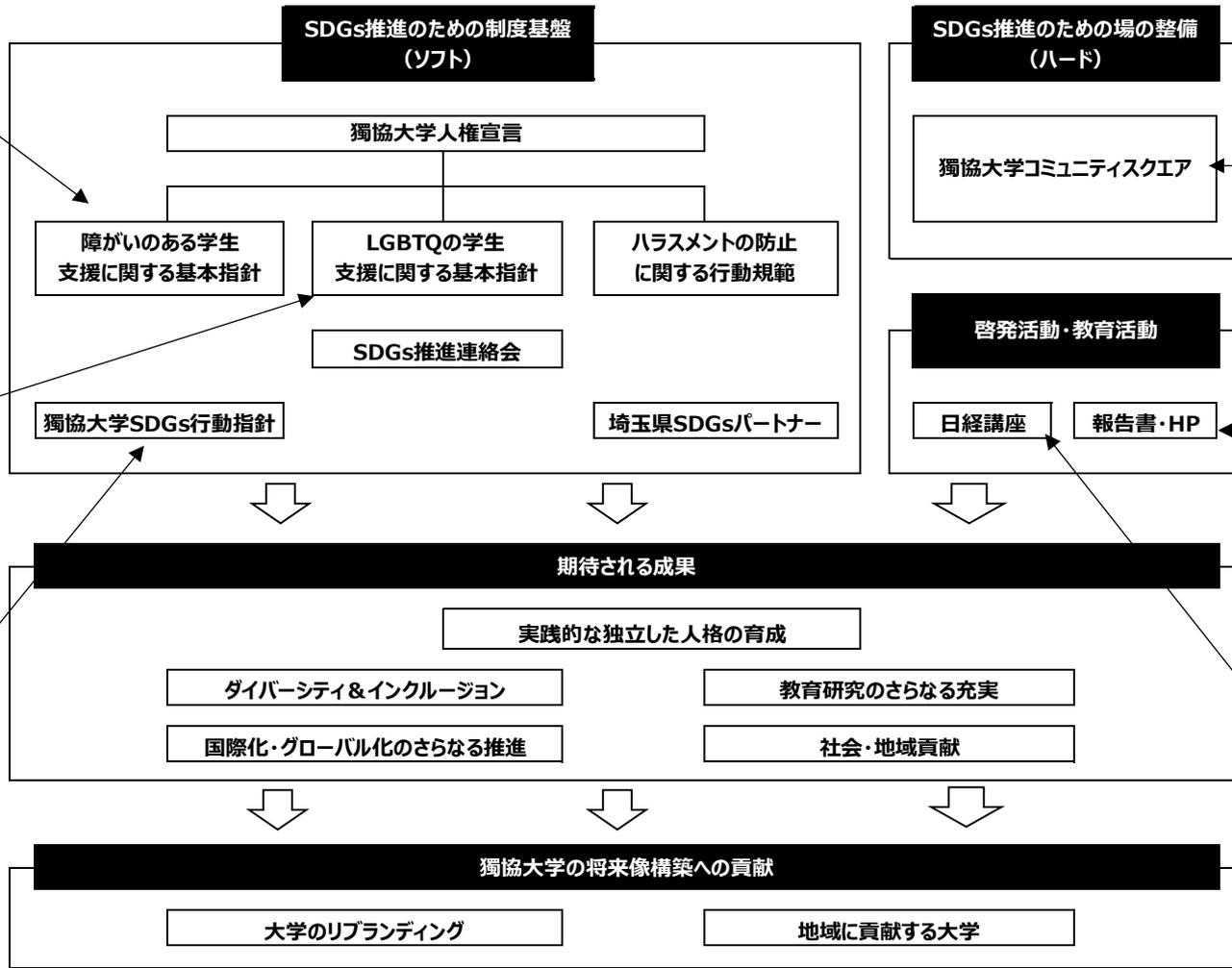


Ⅱ. 高安ゼミの地域連携活動

II-1. 大学の基盤整備に対応したPBL活動

SDGs学園都市

獨協大学におけるSDGs推進のための基盤整備

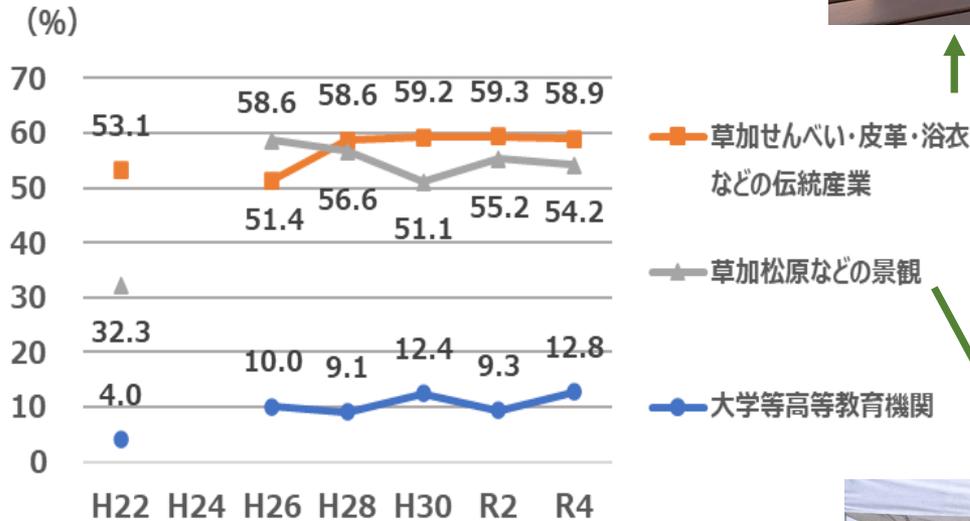


(出典) 高安健一 (2022) 「獨協大学におけるSDGs推進体制の構築 (2019年12月—2022年4月) と地域連携PBLの展開」『獨協経済』第113号p.60掲載の図表1に一部加筆。

Ⅱ-2. 市民の愛着の対象×PBL活動

新たな「価値」を、市民が愛着を持つ伝統産業に重ねる

草加市民の自慢できるもの、誇れるもの



(出所) 「草加市民アンケート」各年度版より筆者作成

(注) H24年度はデータが公表されていないため空欄

質問：あなたが、草加市の自然・歴史・文化・産業・生活環境等で自慢できるもの、誇れるものは何ですか。(○は3つまで)

地域の「記憶」を学生の「取り組み」でアップデートする



草加せんべい

ブルーオーシャン!!!



皮革製品



草加松原聖火リレー



草加本染 (浴衣)

Ⅱ-3. 草加市ウェブサイト「市民のためのコンテンツ」掲載

自治体が学生作成の「市民のためのコンテンツ」を活用

つまようじでつくるモザイクアートが完成

更新日：2018年10月19日

10月8日(祝日)に、練馬川左岸広場で開催されたスポーツフェスティバルの中で、獨協大学高安ゼミ「埼玉レガシー2020チーム」の皆さんが東京オリンピック・パラリンピック大会の機運醸成に向けた企画ブース「つまようじアートでつくる繋がりレガシー」を開設し、つまようじ約3万8000本を使った聖火をイメージしたオリジナルモザイクアートが完成しました。



外国人向けの避難所マニュアル

まちのヒーローアカデミー



高安

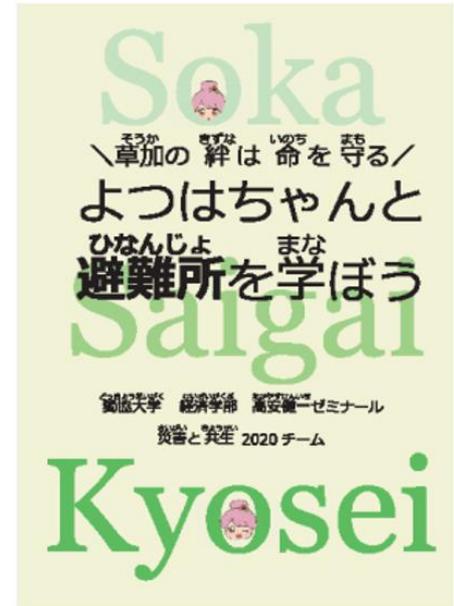
約2件 (0.10秒)

獨協大学経済学部 高安健一ゼミナール まつばら避難所リサーチ隊

www.soka-bokkurun.com/wp-content/uploads/2014/03

ファイル形式: PDF/Adobe Acrobat

高安ゼミでは、SDGsに関連した社会問題を解決するために、私たちは、獨協大学経済学部・高安健一ゼミナールの「まつばら避難所.リサーチ隊」です。はじめに、草加市...



PDFダウンロード可能

Ⅱ-4. 草加市障害福祉サービス事業所つばさの森 との洋菓子の開発・販売



- コロナ禍で洋菓子の売上激減
- 学生のアイデアへのニーズ
(新商品や包装など)
- キャンパスの購買力活用
- 自治体と教育機関（含む高再
校）のコラボ事例として「再
現性」あり

高安健一（2025）『獨協大生と草加市障害福祉サービス事業所つばさの森—マドレーヌが紡ぐ地域貢献の記録』風詠社

II-5. PBLと地域活性化の経路（ランドセラーチーム）

各主体の選択肢が増加
→潜在力の顕在化・エンパワメント
→地域活性化の一つのカタチ!

【国際協力NGOジョイセフ】
・アフガニスタンランドセル寄贈
・SRHR普及

国際連携

【地域企業・団体・業界団体、教育機関等】

共創

連携

【高安ゼミ（学生）】
（地域と世界の触媒）

・PBLの展開
・企画・イベント実施

信頼

【市民】

・イベント参加
・寄附・募金
・地域活動参画
・商品購入

政策協調

【草加市】

・SDGs未来都市・草加市の政策
・SDGs自治体モデル事業（まちのヒーローアカデミー）
・ふるさと納税（GCF）
・地域福祉・教育

各主体が相乗りできるアイデアの企画・立案が重要！
→行政の責務

Ⅱ-6. 高安ゼミのPBLが地域で果たす「機能」

(1) ハブ機能 (前頁の図ご参照)

- 地域企業、地域の教育機関、市民、自治体、国際協力NGO

→これらすべてを「学生のプロジェクト型活動」が
なく

※「多層連携型PBLモデル」

(2) 地域と世界を同時に扱うのが特徴

- 地域活性化 (草加レザー、SDGsイベント)
- 国際協力 (ジョイセフ、アフガニスタン支援)

※両方を同じフレームで動かせる

(3) 自治体の政策と接続

- SDGs未来都市・草加市の政策
 - ふるさと納税(GCF)による資金調達
 - 地域課題の調査・可視化 (学生の経済学的アプローチ)
- ※自治体の政策とゼミ活動がリンクする協働モデル

(4) 多様な主体を巻き込む「インクルーシブ型」

- 草加市障害福祉サービス事業所つばさの森
 - 埼玉県立草加かがやき特別支援学校
 - ジョイセフ
 - 埼玉県立杉戸高校
 - そうか革職人会
 - 企業 (江崎グリコ、毎日新聞、東武動物公園等)
- ※多様な主体が連携できる仕組み

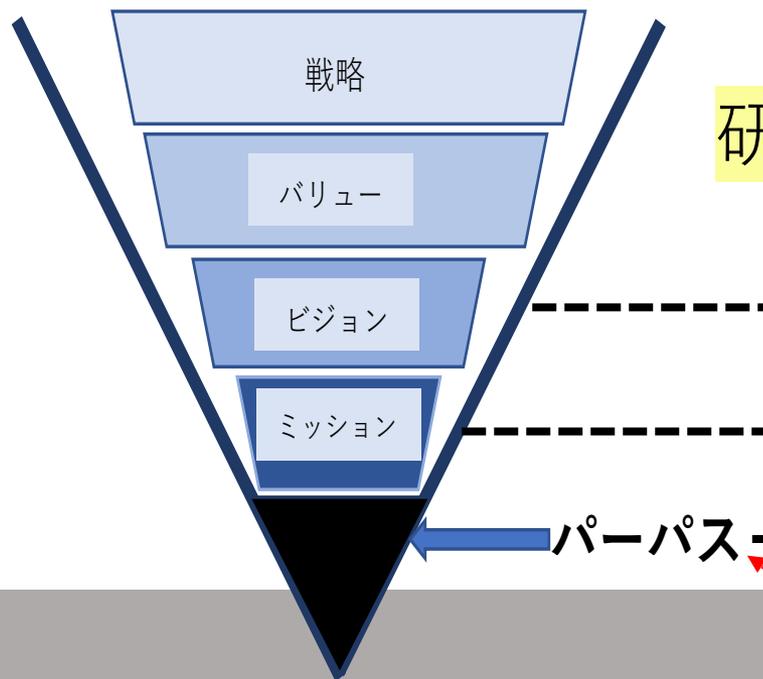
大学のゼミとしての中立性で可能に

(文系) 大学：シンクタンク機能 新しいゼミの姿：Think & Do Tank

Ⅲ. 大学×地域でリブランディング

Ⅲ-1. 大学と自治体が議論すべきこと

パーパスの概念図



大学の役割

研究 + 教育 + 社会（地域）貢献

方向性、将来のありたい姿。
構成員（社内）が共感

建学の理念・精神

社会的な存在意義や存在価値
学内と学外の構成員が共感

大学と自治体が議論すべき重要事項

□SDGsの対象は社会

□関係者はマテリアリティ設定

- 自社
- ・社会における自社の存在意義がより明確となる。
 - ・長期的にビジョン・戦略がぶれず一貫性が保たれる。
 - ・唯一無二の存在としての自社が再認識される。

(出所) 伊吹英子・古西幸登 (2022) p.16

Ⅲ-2. 大学と自治体のリブランディングについて考える

【シティープロモーション】

「マーケティング思考」（短中期の費用対効果の改善を示して定住を誘う）→対象は一義的に市外の人
・・・大学はあまり役に立たない

【リブランディング】

「地域に新しい価値を上書き」（100年後も、このまちに住んでいたいと願う長期志向）

・・・大学は役に立つかも知れない

e.g. 草加市の3大伝統産業を獨協大生が再定義して、市内外に価値を示す。「古くて新しい」まち

→一見両立しそうでないことが共存する意外性
固定観念が時間をかけて溶けていくイメージ

Ⅲ-3. 市外でも草加市を広報

【2025年度】

☑Pock∞t（ポッキー）チーム 大宮高島屋前等で募金活動：子ども食堂にお菓子を届ける

東武動物公園にて、毎日新聞等と共催した「SDGzooプロジェクト」を実施。
草加レザーワークショップ開催（400人が体験）

☑ユニソレ2025（皮革産業）

ECサイト＆HP開設、市内外のマルシェなどで販売活動、NHK「あおきいろ」

☑ランドセラー（アフガニスタンの子ども達にランドセルを贈る）

高校の探究学習での授業、国際理解教育、国際協力NGOと連携

埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム令和7年度第2回市町村分科会

【過年度出展例】

日本最大の国際協力イベント「グローバルフェスタJAPAN」

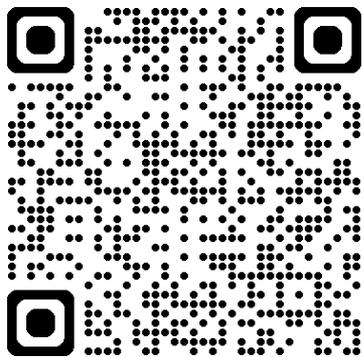
日本最大の環境展「エコプロ」、「With Youさいたまフェスティバル」（埼玉県男女参画推進センター）、「環境なんでも見本市」（板橋区立エコポリスセンター）、「大学生によるあだち未来スケッチAction!」（あだち未来スケッチ地域交流会）

Ⅲ-4. 学生によるコンテンツの提供

商品開発

～アイデアと想いがつまった、学生たちの手づくり商品～

▼高安ゼミホームページ



<https://takayasu-seminar.com/>

ダウンロードセンター

これまでのプロジェクトで制作したパンフレット・冊子をダウンロードできます。

活動報告の詳細が確認できますので、ぜひご覧ください！

冊子とリーフレットに掲載されている情報は発行時点のものです。2次利用なされる場合は、出所明記をお願いします。

冊子

○ 草加市の伝統産業



「未来へ続く草加本染—持続可能な伝統産業への挑戦—」

草加本染LOVERS (13期生)



「草加！これがSDGsか！SDGs Guidebook 2021」

SDGs×獨協大生×草加煎餅チーム (12期生)



「草加レザーと過ごす時間～多世代にも地球にも愛されるブランドの誕生～」

SOKA LEATHER SAVOR (14期生)



No.1

カ Ban

MOPチーム (2016年度)



No.2

ネパールの女性による巾着等

エシカルチーム (2018年度)



No.3

エコバッグ
「レジぶくろつかいませんけん」

Plastic Free Clubチーム
(2019年度)



No.4

Eat 草加せんべい

チーム (2020年度)
「草せん」



No.5

せんべい屋の石けん

SDGs×獨協大生×草加せんべいチーム
(2021年度)



No.6

草加本染

草加本染LOVERS (2022年度)



No.7

皮革製品

SOKA LEATHER SAVOR(2023年度)

Ⅲ-5. 駅西側エリアの「SDGs学園都市」構想

ふるさとチョイスGCF®

プロジェクトをさがす

応募寄付総額 24,328,179,751 円

ふるさと納税ガイド

お気に入り 寄付する

プロジェクトをさがす

応援メッセージ

GCF®とは

ふるさとチョイス

災害支援

TOP > 受付中プロジェクト > 高安ゼミ生(獨協大学) 草加市SDGs共創プロジェクト

高安ゼミ生(獨協大学) 草加市SDGs共創プロジェクト

カテゴリ: まちづくり



SDGs学園都市・草加を一緒に描こう

高安ゼミ生(獨協大学)
草加市SDGS共創プロジェクト

寄付金額

646,500円

32.3%

目標金額: 2,000,000円

達成率
32.3%

支援人数
25人

終了まで
52日 / 90日

埼玉県草加市(さいたまけん そうかし)

♡ お気に入り

✕ ポスト

👍 いいね!

シェアする

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/4944>

ふるさと納税で応援

23

Ⅲ-6. 「SDGs学園都市」への機運醸成

ふるさとチョイスGCF「高安ゼミ生（獨協大学） 草加市
SDGs共創プロジェクト」

●このプロジェクトへの応援メッセージ

SDGsを目に見えるかたちで体現・行動し、人々の行動を変えていく。学生の皆さんの熱い想いに感動しています…全力で応援しています！

2025年11月22日 6:57

草加市がより暮らしやすく、わくわくする街になりますように。獨協大学高安ゼミのみなさんの活躍に期待しています！

2025年11月7日 15:17

獨協大学、そしてその学生さん達は、草加市の宝です。よろしくお願いいたします。

2025年11月11日 16:42

高安ゼミの活躍を応援しています

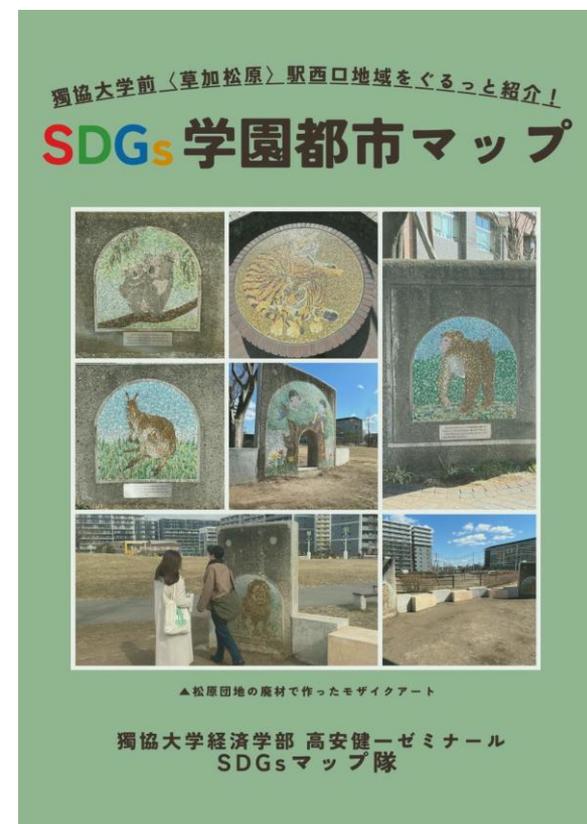
2025年11月5日 11:23

獨協大学高安ゼミの学生の活動を応援しています！

2025年11月8日 13:32

(出所) <https://www.furusato-tax.jp/gcf/4944>

駅西口エリアは絶好の調査活動対象！



Ⅲ-7.草加が目指すは「アイデアがカタチになるまち！」

- ・ アイデアを「**試行錯誤しながら社会実装**」できるまち
- ・ 新しいことをしそうな人材を招き入れて「育て」る

▼既存リソースで拠点創設

- ①好きな時間
- ②多世代
- ③オープンイノベーション

→東武スカイツリーライン沿線大学＋インターネット大学の資源活用・・・PBLを応用したサテライト教室

【草加市の稼働中の取組み】
リノベーションまちづくり、
まちのヒーローアカデミー、
冒険松原あそび場、高安ゼミ、
そうか革職人会などの活動に
共通

Ⅲ-8. アイデアをカタチにするのに適した草加市の規模感

PBLの展開と「そうかSDGsパートナー」登録で分かったこと

- ▼人口約25万人、面積約27平方キロメートル、駅4つ
- ▼移動のための時間と費用は負担にならない
- ▼適度に業種や専門家が集積（商品作成可能）
- ▼マッチングコスト低い

SDGsパートナー制度に200団体登録

→多様な組み合わせが可能：e.g.高安ゼミ×○

- ▼市役所に情報集積

仲介役1人を介せばキーパーソンにたどり着ける

高安健一（2023）『半径3キロのPBL—埼玉県草加市で挑んでだSDGs地域連携の記録』幻冬舎ルネッサンス

IV. 大学と自治体の連携に向けて

IV-1. 大学が地域で果たす機能とSDGs

SDGsで繋がる・繋げる

国際交流・多文化共生

人材育成・教育

経済活性化・地域産業支援

公民連携・政策提言

地域課題解決・共創

地域福祉・共生社会支援

環境・防災・
持続可能性推進

文化・芸術の発信

地域情報発信・広報

コミュニティ形成・
交流拠点

IV-2. 学生と地域のコラボを推進するために (6章目次)

調査・研究対象になるプロジェクトを組成することがポイント

はじめに

1. 学生に期待するのはボランティア活動、それとも地域課題解決のための活動？
 - (1) コラボ案件の入口での整理
 - (2) 地域主体による大学がもつ関連情報の収集
 - (3) 3つの関門（スケジュール調整、移動手段確保、コミュニケーション・ツール）
2. 大学による情報の受発信とコーディネーション機能の充実
 - (1) 情報発信機能
 - (2) コーディネーション機能
 - (3) コラボ案件チェックリストの活用（次頁参照）
3. 学生とのコラボを成功に導く環境整備と、学生の能力の活用
 - (1) アイデアが生まれやすい環境を整える
 - (2) 学生のリサーチ力を活用する
 - (3) コンテンツの作成力と発信力

おわりに

(出所) 高安健一 (2025) 『獨協大生と草加市障害福祉サービス事業所つばさの森
—マドレーヌが紡ぐ地域貢献の記録』風詠社

IV-3. コラボ案件チェックリスト（企業・団体→ゼミ等）

1. コラボ案件の概要

- (1)プロジェクトの概要と目的（200字程度）
- (2)コラボ案件の社会的意義（誰のどのような課題を解決しようとしているのか）（100字程度）
- (3)コラボ案件の魅力・面白い点（100字程度）
- (4)大まかなスケジュール
- (5)重要業績評価指標（KPI）（イベントの集客人数、商品の売上などがあれば）

2. コラボを進めるうえでの制約条件（分かる範囲で）

3. 学生に関する事項

- (1)必要とされる参加学生の人数
 - (2)学生が期待されている役割・作業など
- ※商品開発の場合、学生が受けもつ工程（企画・製造・販売・広報・その他）

- (3)特に学生の貢献（アイデア）が求められる分野
- (4)学外の主たる活動場所、移動の経路・手段
- (5)学生参加報酬の有無
- (6)学生のキャリア形成への貢献（簡潔に記入）
- (7)学生によるSNSでの情報発信ニーズの有無
- (8)利用可能なコミュニケーション・ツール

4. アウトプットに関する事項

- (1)活動報告会開催の有無（開催する場合は概要を記入）
 - (2)イベント開催の有無（同上）
 - (3)成果物（リーフレットや冊子、商品など）の作成予定作成する場合は大まかな予算、配布先、活用方法
- ### 5. 教員に期待する役割（簡潔に）

参考文献

1. 著書

- ・岡村圭子（2019）『団地への眼差し～ローカルネットワークの構築に向けて～』新泉社.
- ・木村佐枝子（2014）『大学と社会貢献～学生ボランティア活動の教育的意義～』創成社.
- ・神戸学院大学（2020）『地域と繋がる大学～震災から何を学んだか～』中央公論新社.
- ・高安健一（2025）『獨協大生と草加市障害福祉サービス事業所つばさの森～マドレーヌが紡ぐ地域貢献の記録』風詠社.
- ・高安健一・日本経済新聞社編（2024）『大学生のための世界の課題発見講座～SDGsを通じて未来を探究する14講』日本能率協会マネジメントセンター.
- ・高安健一（2023）『半径3キロのPBL～埼玉県草加市で挑んだSDGs地域連携の記録～』幻冬舎.

2. 論文

- ・高安健一（2024）「草加市障害福祉サービス事業所つばさの森との焼き菓子製造・販売にかかわる共創活動～ソーシャルビジネスとしてのゼミ活動の可能性について～」『獨協経済』第118号（9月号）pp. 31-52. <<https://dokkyo.repo.nii.ac.jp/records/2000328>>
- ・高安健一（2024）「獨協大学におけるSDGsを活用した初年次教育の試み～「日経SDGs未来講座」（2021年度～2023年度）の概要と成果～」『獨協経済』第117号（3月号）pp. 49-65. <<https://dokkyo.repo.nii.ac.jp/records/2000266>>
- ・高安健一（2022）「獨協大学におけるSDGs推進体制の構築（2019年12月－2022年4月）と地域連携PBLの展開」『獨協経済』第113号（9月号）pp. 57-76. <<https://dokkyo.repo.nii.ac.jp/records/3095>>